

中之島公会堂は1400人の参加者でいっぱいになりました



2条例案の撤回を求める府民集会 12月7日 中之島公会堂



「取り返しがつかないことが起きる前に撤回させよう」と語る小野田教授



集会では、小野田正利氏（大阪大学大学院教授）が「教育基本条例案が施行されると、学力というもののさしだけで測られる子ども観や管理教育で、大阪の教育は荒廃する」と警告を発しました。

府庁の地元、大手前の谷町2丁目町会長・中野雅司さんは、「要望を聞く立場の職員がものを言えないのでは、住民にとっても大きな損失。また、マネジメントの視点からも、下部組織に権限を移している企業ほど発展しているという事実からみても、職員基本条例案は撤回すべき!」と指摘。高校生からも「学力競争一辺倒になる学校や、体罰を容認するようなこの条例の怖さをみんなに知らせていきたい」と、力強い発言がありました。

職員基本条例案 教育基本条例案

住民の声も職員の意見も反映されない! 学力競争だけで教育と言えるのか?

河中 延子さん

(大阪自治労連・公務公共一般労働組合)



自分たちの問題を何とか解決しようと走りまわろうと、親睦会だった「育友会」は労働組合になりました、と語る河中さん

自分たちの問題は自分たちで動く

これがホントの組合民主主義

住民の教育
ななくして
自治体
労働者の
まのま
はなすい



夕方の勤務につくとという生活が続きました。問題を解決するための手だてを考えるとなかなか寝つけず、ソファに山積みになっている資料を出して勉強する毎日でした。

の自覚は持てたし、人間として成長できた」といってもらえてうれしく感じ、その頃の仲間とは、今も一緒にお茶をしたりしています

提起は思いついて話しいは丁寧

未知の世界と接触
「ドキドキ感を失いたくない」

今から40年前に、堺市の保育所に非正規保育士として勤務。生活を守るため関連評で組合活動を始め、退職後に民間保育所で短時間勤務についてから、再び公務公共一般労働組合に加入した河中さん。

職場の人に「ここに名前書いて!」と言われて入った「育友会」が組合活動との出会いでした。

首切り・賃下げを乗り越えるため

何も分からないまま就任した役員でしたが、賃金や雇用のことで問題がおこると、「何とかしなくては!」と大阪自治労連に何度も出向き、仕事の問題が社会や政治とながっていることを学びました。

夫が亡くなり、生活のため

朝の勤務を終えると、その足で大阪自治労連に行つて相談にのってもらい、そのまま

勉強

勉強し、自分たちの進む方向をみんなで決め、「イザ!行動!」と決まっても、家のことや自分のことを横に置いて組合活動に時間を割くことは、思ったよりもうまくいきませんでした。

「自分のことだから、自分で活動しないと」と思い、なぜこの集会や署名をする必要があるのかを、理解してもらえないように根気よく話しました。退職してから、組合の記念行事に誘われて参加した時、「あの頃はしんどいこともあったけれど、労働者として

「常に、社会とつながっていたい」という河中さん。今まで知らなかったことがわかる喜びと、それを仲間と共感しあい、さらに新しい疑問を追求する喜びをずっと続けていくことが、ライフスタイルになっている河中さんです。

こんなはずではなかった

後悔しないために

2条例案撤回の 声を広げよう!